

＜令和元年度 第2回研修会（多職種連携）アンケート結果＞

令和元年9月21日（土）14：00～17：00 於：守山区休日急病診療所 2階

参加人数 48名

アンケート回収 42名 （回収率88%）

1 講演について、医療と介護の連携に役立つと思われましたか？

思う 30名（71%） まあまあ思う 12名（29%）

- ・ 医師、看護師、ケアマネジャーの目線（立場）での色々な事例が聞けて勉強になった。
- ・ どんな支援をしたか、色々な事例を聞くことで自分が今までにしてきた支援と照らし合わせて考えることができる。
- ・ 医師と研修で接する機会があった。
- ・ 顔の見える関係が作れる。
- ・ 違う見解も必要。
- ・ 事業所の方が工夫して、ご本人・ご家族と関わられる状況が目に見えようと思った。
- ・ 自分の中（ケアマネジャー）だけで無理だろうと思う希望でも、様々な専門職が関わることで、叶えられることがある。
- ・ 医師の立場・看護師の立場・ケアマネジャーの立場での役割の違いを感じた。
- ・ 医療と介護の連携が必要・大切であると思った。
- ・ ケアマネジャーの話がとても感動的であった。訪問看護師さんの丁寧な看護が伝わった。
- ・ 医療と介護に関する方々が連携することで成り立つと思う。
- ・ 具体的な役割をどう連携していくかがわかりやすくなっていくとよいと思った。
- ・ 医療からの貴重な意見が聞けてよかった。
- ・ 事例を聞き自分に当てはめたりできると思う。
- ・ 直接先生の気持ちを聞くことができた。

2 グループワークでは、医療と介護の連携における課題と対策について話し合うことができましたか？

できた 31名（74%） まあまあできた 9名（21%）

どちらともいえない 2名（5%）

- ・ たくさん意見や経験を話してくれて参考になった。
- ・ 本人と家族の意向の確認については、支援チーム複数人で関わることで、それぞれの本音を聞き出すことができるのではないかという意見が出た。
- ・ 医師や看護師も含めて、多方面からの話が聞けた。
- ・ 自分自身が経験不足で看取りについて語れない気持ちになった。

- ・各事業所の現状を知ることができた。
- ・各職種の意見が出てどんどん話し合うことが重要。
- ・課題は列挙できたが、対策は今後考えていく必要があると感じた。
- ・新人の分からない点は大体分かった。
- ・グループ全員の発言もあり、医師の参加があった。
- ・いろいろな人の話が聞けて勉強になった。
- ・時間や手間をかけて意見をまとめていく必要があると知った。
- ・同じ看取りはないと思うので、その人その人の今を大事に関わっていきたい。
- ・課題をチームで共有していくことが、さらに重要だと思った。
- ・家族に寄り添うには個人では負担が多いので、チームで関わるのが大切だと思う。
- ・情報の共有を早くすること。
- ・介護の方々のお話から、看取りへの意識が高いことが伝わった。
- ・いろいろな立場の方からの事例を交えて、それぞれの感じたこと・経験などの話が聞けて、大変勉強になった。
- ・介護の現場の方がいないので、介護職の方も参加していただけるとよいと思う。
- ・口腔ケアの大切さを知った。
- ・看取りについてどのように連携していけばよいか少しわかった。

### 3 今回の看取りを通しての研修は、ACPを学ぶ意欲に繋がったと思いますか？

思う 30名 (71%)      まあまあ思う 9名 (21%)

どちらともいえない 3名 (8%)

- ・ACPの大切さがわかり、今後早いうちに家族や利用者と話し合っていこうと思った。
- ・自身の経験が少ないケアマネジャーなので、具体的な看取り（在宅）事例を色々と聞けて大変勉強になった。
- ・経験豊かな方から教えていただき、勉強になった。
- ・事例は色々なのでたくさんの症例に出会う必要がある。
- ・経験を積んでACPを学べるケースを大事にしていきたい。
- ・研修を重ねることが重要だと思う。
- ・ACPについて医療・介護の両方に浸透されていないから。
- ・まだまだ自身、浅いと思った。
- ・タイミングが難しいことを知った。個人の感性も関わる。
- ・ACPの研修にぜひ参加したいと思った。
- ・他事業所も皆様悩み考え、工夫しながら良い方向にと活動されているのが理解できた。
- ・とても有意義な話し合いができたと思う。
- ・チームワークの大切さ、本人の意向の大切さがわかった。

- ・ ACP 以前に利用者・家族が「死」の受け入れが難しいことが多く、「死」を考えてもらうためにも ACP を学んでいくことが必要だと思った。
- ・ 詳しい内容までは認識がないので、機会があれば学びたい。
- ・ キューブラー・ロスを調べてみる。
- ・ まだまだ ACP から考えることの内容や研修を聞きたい。
- ・ 今後看取りになるであろう方への対応を考えるいい機会をいただいた。
- ・ 本人の希望を尊重したい。
- ・ これからも勇気をもって ACP をすすめていきたい。

#### 4 今までに医療と介護の連携で何か困った事はないですか。具体的にお書きください。

- ・ 看取りを希望されても医師が消極的な時があったり、ケアにあたっては医療や介護の線引きが難しいときがある。
- ・ 利用者の退院時、病院から「訪問医と看護を決めて連絡してください（至急）」と言われ困った。要支援の方で入院も知らなかった。
- ・ そのような時ははち丸在宅支援センターへ相談する。
- ・ 中川区の SW から守山区の訪問医やサービス情報がわからないので、サービスを決めてほしいと言われた。決めるのはいいが入院中の本人・介護者の意向が曖昧で、SW からの返答も薄かった。
- ・ なかなか医師の協力を得られない。
- ・ 医師によって壁のある方がいる。
- ・ 現場でおこっていることを報告してほしい。
- ・ 研修にみえる医師は親しく感じられるが、その他の医師はやはり垣根を感じる。徐々に時間をかけて距離を縮めていくものと思っている。
- ・ 全員（地域）で看るという大切さを共有できたと思う。
- ・ 正しい連携がわかっていない。
- ・ 経過の早い利用者さんに対し、医師や看護師と介護サービス事業所への連絡が遅くなることもあり、連携が難しいと思った。
- ・ 忙しい先生方なので、連絡をとるタイミングがつかみにくい。
- ・ 主治医との連携をどうとっていくか。
- ・ 介護職の医療知識が低く医療連携が難しい。通院介助の際の介護で医師への報告がうまくいかない。
- ・ 福祉用具やヘルパーへ ICT 導入について依頼するが、レスポンスがとっても遅く介入サービス内容が展開できなかった。

5 その他、医療と介護の連携事業、守山区在宅医療・介護連携支援センターへのご意見ご要望があればご記入下さい。

- ・グループワークに医師が入って、医師からの考え・看護からの考え・ケアマネジャーからの考えが聞けてよかった。医師は介護からすると敷居が高いですが、今回の研修で少し身近に感じることができた。
- ・それぞれの立場（医師・看護師・ケアマネジャー等）としての課題について、お互い発表できる研修。
- ・事例を（簡単な）通して、医師・歯科医師・薬剤師・看護師・ヘルパー・ケアマネジャー等、それぞれの場面でどんな支援ができるか、それぞれの立場からグループワークで話し合う機会があるとよい。（ex：認知症と診断された時、進行して徘徊が始まった時、」寝たきりになった時など時系列で実施できるとよい）
- ・連携ができる研修会、ツールを発信してほしい。
- ・在宅医療をすすめる医師を増やしてほしい。
- ・終末期・看取りをまたやってほしい。
- ・グループワークはとても良いと思う。
- ・介護の現場スタッフも参加できる研修と、いろいろな職種との研修は今後開催してほしいと思う。
- ・医師会が近くて身近に感じることができた。
- ・はち丸ネットワークについて、使い始めからその後のフォローまで詳しく知りたい。
- ・違った職種の方がほとんどだったので、医療・ケアマネジャーの事情などいろいろな話に大変興味をもって学べた。